

# 矢板市 生活支援体制整備事業

## 第2回地域づくり勉強会を開催しました

矢板市社会福祉協議会は、矢板市から生活支援体制整備事業の委託を受け、高齢者の方がいつまでも住み慣れた地域で元気に過ごすことができるよう、住民の方が主体となって助け合い、支え合いができるような地域づくりに取り組んでいます。



矢板地区 12月12日 参加33名



片岡地区 12月18日 参加27名

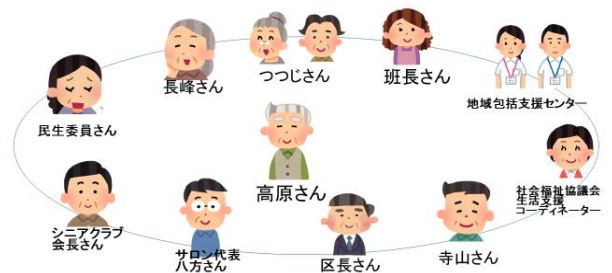


泉地区 12月21日 参加16名

- 1 「第1回勉強会の振り返り」 社会福祉協議会 第1層SC(生活支援コーディネーター) 只木 光雄
- 2 「地域で助け合う、支え合うってどんなこと? ~お互いさまの仕組みづくりについて」 社会福祉協議会 第1層SC(生活支援コーディネーター) 川畑 聡子

地域での”助け合いの仕組み”を考えるための協議体をつくっていくにあたり、まず『助け合いとはどんなことか?』『どうすることが助け合いになるのか?』ということを共通理解していただくため、1つの事例〈近隣などの関わりを拒み閉じこもりの高齢者への助け合い〉を観ていただきました。

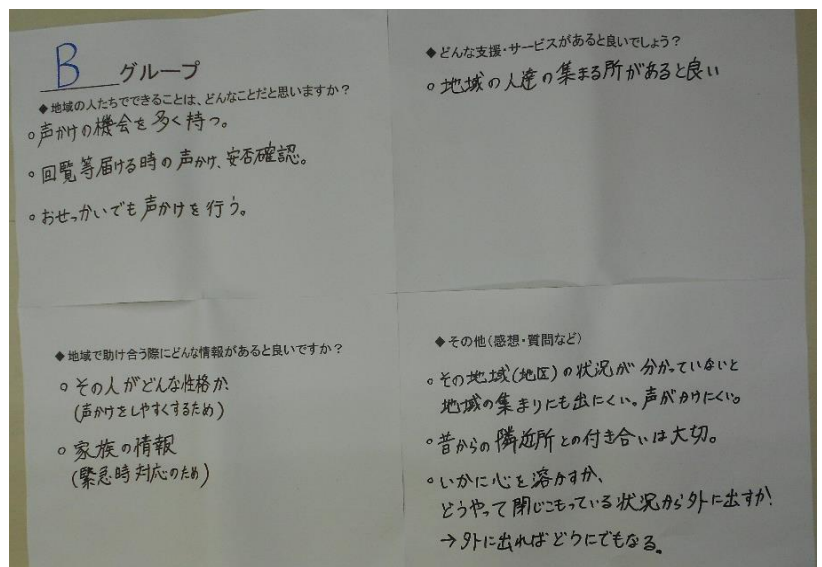
その後、地域のみなさんと助け合いについて考える場をつくりました。



その後、事例のような方が、自分の地域にいた場合を想定し、グループで『どんなことができるか?』『どんな情報やサービスがあると良いか?』などの話し合いを行いました。どのグループも活発に話し合いが行われました。グループで出た意見をまとめ、発表していただき全員で共有しました。

《詳細については、次回準備会で話をさせていただく予定です》

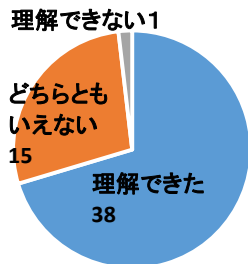
グループの話し合いで  
まとめてくれた意見です。



## アンケート結果

参加者76名 アンケート回答者 56名

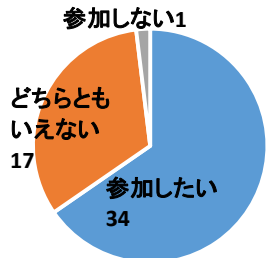
### 勉強会に参加して



#### 【アンケート自由意見】

- 地域づくりに取り組みたい。地域の情報にアンテナを高くします。
- 福祉の道は長い旅に出るようなもの、焦らず驕らず身近なことから…
- 地域に恩返しをしたい。役に立ちたい。
- 現状の行政、班単位の活動を密にすることを考えていくことが重要。
- 初対面の方々と話ができるのが第一歩ではないでしょうか。
- お互いさまの地域づくりは重要。
- 地域づくりで支援が必要な人をどこまで救えるのか…
- 話を聞いていると理解できたようで、あとで考えるとわからなくなる。
- 参加者がどれだけ理解しているか、2回目でも目に見えない。
- 協議体立ち上げありきで日程が組まれているみたい。

### 準備会への参加



アンケートで「協議体立ち上げありきで日程が組まれているみたい。」という意見や勉強会での質問の際に、『協議体がどんなものかわかりにくい』『何をしていけば良いかわからない』というご意見をいただきました。

事業担当として、『何とか協議体をつくらなければ！』との焦りもあり、十分な説明や時間をとれなかったことを反省しています。

この事業の目的は、協議体をつくることではなく、その地域独自の支え合いの仕組みをつくっていくことです。これまでのように、福祉の仕組みを行政がつくり、それを住民の皆さんに協力してもらって行っていく方法とは違います。協議体も皆さんがイメージする会議とは全く別のものです。

協議体のメンバー（地域で活動する様々な人）で、地域の課題などの情報を共有し、自分たちの地域をどんな地域にしたいか（目指す地域像）を話し合い、自分たちが無理なくできる範囲でできることを行っていきます。

そのためには、

- ◆協議体へ参加し「地域づくり」について一緒に考えて行動してくれる人、
  - ◆地域での助け合い(サービス)の担い手になってくれる人
- の存在が不可欠です！！

皆さんの住んでいる地域をこれまで以上に、助け合い・支え合いのある地域にしていくために、皆さんの力を貸していただけませんか？

準備会への参加をお待ちしています！

「説明がわかりにくい」「なんだかよくわからない」という場合には、詳しく説明をさせていただきます。お気軽にご連絡ください。

